

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770200309		
法人名	特定非営利活動法人ひかり		
事業所名	グループホームひかり B棟		
所在地	石川県七尾市田鶴浜町る部88番地1		
自己評価作成日	令和2年3月11日	評価結果市町村受理日	令和2年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和2年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3床増床し一年が経過しました。各ユニットの職員の固定や早番、遅番の勤務時間にも慣れ入居者の方々にゆったりとした時間を提供出来ていると考えています。引き続き四季折々の行事や食事に気を配り季節の変化を感じて頂けることを第一に考え、また理念に掲げている「年老いて病んでも普段どうり暮らしませんか」を個々の生活に合わせて実践していけるよう支援を行っていきたくと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング、申し送り時、理念の把握をし理念が生かせるような取り組みをしている。又理念が入居者様の見える場所に貼ってある		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入り地域活動に参加。認知症カフェに入居者の方々が継続的に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一回ひかり通信を発行している。運営推進会議で地域の方にご参加いただき認知症について理解していただく機会があり方針をお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議をしている。地域の方行政担当者、包括、入居者、ご家族、管理者、職員の参加がある。現状報告や意見交換が出来ている。管理栄養士の方に参加いただく機会がありました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に運営推進会議に参加いただいている。日頃より相談などアドバイスをいただいています。入居者数や入居者待機情報の報告を行っています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化に関する研修を行っています。開設当初から玄關は夜間以外鍵をかけることは無くさりげなく見守り、同行を行っている。外出したくなる原因が何処にあるかを考える事の大切さを共通認識している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会や虐待について学ぶ機会を持ち言葉遣いから不適切にならないよう職員間で協力し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用される可能性のある入居者の方はいませんが市より頂いたパンフレットをいつでも見られるようにしてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の該当を示しながら口頭で行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に気軽に話しやすい雰囲気を作るように努め、苦情やご意見などを聞くようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度のミーティングにて自由に意見交換が出来る雰囲気が出来ている。朝の引継ぎ時に職員の意見や気づきから細かな事項に関しても改善を図るようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は月に1~2回現場に入り見守り、シフトや勤務状況の把握に努めている。職員の意見に耳を傾けやりがいを持ってもらえるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自分から研修に参加した個人に対する評価もあり本人の自信にも繋がっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会の分科会に必ず参加し他のホームのスタッフの意見等を聞く事で自己評価ができる機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族にホームに来ていただきホームの様子、雰囲気を感じてもらいながらご家族が思っている価値観に差が無いかに十分に検討いただき気持ちを引き出すようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず生活歴、心身状況を聞き取り、その後困っている事無いか丁寧に話を聞き、その他言い忘れや気にかかる事等を時間をかけてゆっくり聞き取り、より良いサービスを提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の受付の際、当ホームに入居する選択肢がご本人、ご家族にとって最善かどうか検討し他の選択肢の提案もさせて頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に生活する事で心遣いもあり出来る事はして頂いている。喜怒哀楽を無理に押さえない事で自然の関わり合いが出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族が一番大切であると説明し情報交換し一緒に支えられるよう努力している。スタッフのいる所にも顔を出していただき小さな気付きに対してもお互い話をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の方には次回の面会に繋がるよう行事日程をお伝えしている。訪問美容もあるが馴染の理・美容院を利用したりしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を重視し席を配慮する事があるが画一的な関係にならない様、また利用者どうしの関係を絶たない様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られる際ご本人の状況、ケアの工夫の情報を提供している。退去し死去されたご家族が立ち寄り状況報告されることがあった		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で希望、意向が聞ける事があり出来るだけ日常的に自分で選抜出来るよう言葉掛けを行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を参考にし必要な情報に関しては病院やケアマネジャーから情報を頂いている。入居後は知り得た情報を職員間で共有しより良いサービスを提供できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事が一定ではないのでその時々状況を把握し対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々に担当者を決めている。入居者の方に変化があった場合は適宜サービスの見直しを行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとの生活日誌には入居者の言葉、行動を記録し休みの職員に伝わるような表現、変化の共有、ケアに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と運営推進会議での連携体制を活かし、ご本人、ご家族が安心して生活できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方がホームに来て話し相手、体操等に付き合ってください。入居者の方方も楽しみにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で往診していただける医療機関がある。歯科検診もホームに来ていただき変化があれば受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はホームより5分程の所に家があり何かあればすぐ駆け付けてくださっている。気づきや変化があればメールや連絡ノートで相談し助言や指導をしてくださっている。また必要があれば医療機関との連携調整もいただき主治医の往診時には必ず同席している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が面会に行きご家族や医療機関との連携を図っている。早期に退院できるよう働きかけを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご家族、主治医と相談しご本人にとって一番いい過ごし方ができるよう何度でも話し合いを行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故対応マニュアル、職員連絡簿等備えており有事に備えている。個々の急変時の対応に関してご家族、医師とホームにて話し合いを行っている		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急マニュアル連絡網は見える場所にあり職員一人一人持っている。事故時はそれに従うようしており玄関先にはAEDも設置している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	入居者の主治医、専門医との連携は出来ている。バックアップ機関とも必要最低限の支援体制は確立している		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤の職員がなるべく一人にならない様日勤の勤務時間をずらし負担の軽減に努めている。緊急時には近くの職員や看護師が応援で対応している		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼、夜間の訓練を実施している。運営推進会議の議題としても取り上げ近隣の方の訓練の参加、同時に消防署からの意見やアドバイスもいただいている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	ウッドデッキに非常階段を設置している。高さも高齢者の避難に適した高さになっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は雇用契約時に個人情報の取り扱いに関する契約を取り交わしておりプライバシーの保護に努めている。また業務中の申し送り時にはイニシャルを使用し個人が特定できない様に配慮している。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思や感情を上手く表現できなくなっている方に対し一方的にならない様「いいかね？」と声を掛けながら支援するようにしている		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールを決めていないのでその日の天候や入居者の心身の状態に合わせて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物の希望があった場合同行支援している。誕生日や行事にてホームからプレゼントがあり、機能性よりご本人が素敵に見える物を贈らせていただいている		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けはしたいと思う方に活躍してもらっている。回転ずしやファミリーレストランに出掛ける事もある		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量(残された方)排泄の状況共に記録し変化に気づくようにしている。偏りはあっても水分をしっかりと摂ってもらっている		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯の無い方にはうがいを促し舌下の清潔保持に努め見守り声掛け誘導を行っている。嚥下障害のある方は口腔内を観察、確認をおこなっている。歯ブラシは毎回消毒している		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンに応じてトイレ誘導、パット交換を行い蒸れや濡れを予防している		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、乾物、ヨーグルト、寒天等積極的に食べてもらっている。水分摂取の少ない方には好物の物で水分摂取してもらっています		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月火木金に入浴日を設けており希望日に入浴している。必要以上に手を掛けず能力に応じて自分で着脱できるようにしている。果物、ハーブ、花等の変わり湯も季節毎に継続している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝、夜の就寝共時間を決めていない。各々に合わせ対応。夜間は2時間毎に巡回し安全を確認している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は食前に2名の職員で確認、手渡し。服用前に職員同士で確認し合い入居者の方にも名前の確認をしてもらっている。薬の変更等は個人ファイルに保管しており確認できるようにしている		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、調理、洗濯干し、たたみ等希望と能力に応じて自分の仕事として張り切ってやってもらうようにしている		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフが同行して地域サロンに参加してもらっている。コンサート、演劇等ご家族やスタッフが同行して外出する事ができている		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーに行ったり散歩中に自販機で好きなジュースを購入したり飲食することが出来ている		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族がホームへの問い合わせ等で電話があった時には電話口に出て頂くようにしている。季節毎に絵ハガキを送って下さるご家族もおられます		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で落ち着いた雰囲気になる様多少推然とした配置になってもそれぞれが気に入った場所、相性の良い人の隣に座る事ができている。夜間はすぐわかる様トイレは灯をつけドアは開けたままになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間はソファで寝そべったり手芸をしたり様々なスタイルで過ごせるようタイプの違う椅子を置くなどの工夫をしている		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活状況とかけ離れない様、馴染みの家具や身の回りの物を持ち込んでもらうようにしている。機能やケアの都合で一方向的に生活スタイルを変える事はしていない。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で安全に歩行できるよう手摺を設置。脱衣室浴室にも手摺を2本増やした。立ち上がり、座位時に使用し安全自立を図っている。居間は畳を使用している。		